

精神科作業療法最前線

特集にあたって

わが国では「地域共生社会」の実現に向けたさまざまな取り組みが進められている。精神科領域においても、「多様な精神疾患等に対応できる医療連携体制の構築」、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」等の施策が示され、「入院医療中心から地域生活中心へ」という考え方から次のステップに進もうとしている。

そのような中で、精神科に入院された方を主な対象者としてきた精神科作業療法も、地域に暮らす多様な精神疾患や課題を抱えた方への「本人の望む暮らし」に寄与する対応力がさらに強く求められることとなる。

一方で、「当事者が望む生活を実現するための精神科の作業療法のあり方検討委員会」の調査では、「本人の望む暮らし」を目指した実施計画の立案や支援を十分に実践できているとはいえない現状も示唆されており、精神科領域のOTの臨床はジレンマと苦悩に晒されている現状も推測される。

今回の特集では、地域で多様な対象者へのアプローチを続けてきたトップランナーに、望む暮らしの実現のために、対象者の個別性の理解（本人の生きづらさへの理解）を踏まえた包括的な評価と個人支援のあり方と、併せて「それらを実践するための組織・管理のポイント」までを提示していただいた。本特集により、明日からの臨床実践で「読者自身が一步踏み出すこと」を応援したい。

（岡庭 隆門）

企画担当

岡庭 隆門（静岡県立こころの医療センター，作業療法士）

香山 明美（東北文化学園大学，作業療法士）

長野 敏宏（御荘診療所，医師）